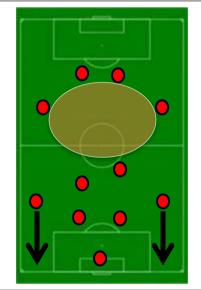
節の敗因と今後のポイン

好不調のカギは ンの高

▲1、2節の試合では、前線からディフ ェンスラインが非常にコンパクト。相手 にスペースを与えない。(図1)



▲ディフェンスラインが下がり、中盤に スペースが。相手にそこを使われ、セ カンドボールも奪えなかった。

が生まれず、守備を強いら ており、スペースを生ませ を比べたい。図1では、全 いた1、2節と敗れた3節 ルを拾うことが出来ず、後 跳ね返してもセカンドボ れる悪循環。跳ね返しても を使われた。攻撃にリズム そこから生まれたスペース い方をしてきたため、焦っ 手が前節と全く異なる戦 連勝を狙ったものの、まさ 体がコンパクトにまとまっ 手後手に回ってしまった。 てラインが下がってしまい かの零封負けを喫した。相 今回はサッカーがハマって 備が可能だった。 相手に自由を許さない守 で、 も、ラインを高く保つこと る。また、守備面において 攻めが出来ていたのであ ーまで含めた厚みのある 位置を取り、ディフェンダ していた。両サイドも高い につなげるサッカーが機能 方で東国大戦では 前からプレスをかけ、

ってしまった」(大石)とある 後のところで跳ね返しクリ 焦り、ディフェンスラインが かりとつないでくる相手に ように、プレスをかけ、しっ 下がってしまった(図2)。最 相手のプレッシャーにあせ

う。セカンドボールを拾え 間にスペースが出来てしま 変わらないため、中盤との をさせてしまった。 ず、相手に自由にパス回し

昇格組の東国大相手に3 受け身の戦い

り、セカンドボールを攻撃

ングボールを小牟田が競

アしても、前線の位置は

う れない。しかし、自分たち はフォーメーションも変 ターサッカーのチームだっ 段階では、東国大はカウン れば、上へはいけないだろ でもやることが出来なけ のサッカーをどんな相手に は戸惑いを見せたのかもし を見せてきた。そこに選手 え、パスをつなぐサッカー た。しかし、実際の試合で そもそもスカウティング

今後の改善点

ていない。そのおかげで、ロ

いくはず。キャプテン碓 め め、ベンチメンバーまで共 が始まる。ゴールデンウィ 解をもっていきたい」と話 は「チームとして共通の理 すれば勝ちへとつながって いため、チームとして機能 せるか。個人のレベルは高 究されることも含めてど 証明されている。あとは研 はあることが、1、2節で を付ければ、圧倒できる力 ークの中1日の試合も含 したが、次の試合からは 10 れだけ自分たちの色を出 中盤をコンパクトにまと 日で3試合を行う連戦 間延びしないように気

利となるだろう。 通理解を持ったチームが有

PREVIEW NEXTMATCH

連敗だけは避けたい駒大。対する関学は開幕から2連勝したが、前節は昇格組 の東農大に敗戦。同じような状況の2チームの戦いとなった。昨年の対戦は1勝1 敗の五分。ともに2連敗は許されないため、激しい戦いが予想される。駒大は前 節零封されてしまった攻撃陣の奮闘が不可欠。小牟田、山本の2トップを中心に、 爆発に期待したい。ともに3ゴールを上げており、得点ランクのトップを走る。この まま互いに切磋琢磨し、チームを引っ張っていってほしいところだ。

